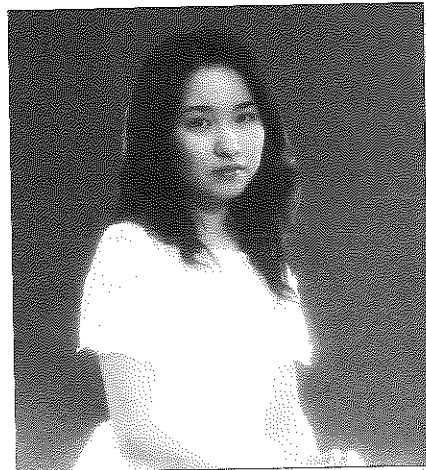


Report

「音楽やってて幸せ記念日」 を迎えるまで

～コンペ最多金賞受賞者の再出発～



泉 ゆりの
Yurino Izumi

10代の演奏家シリーズVol.12出演

ピティナ・ピアノコンペティションにて過去最多の金賞受賞歴を誇る泉ゆりのさん。幼少よりその才能を開花させた彼女が、悩み多き時期を経て今年5月「10代の演奏家シリーズ」に出演。新たな自分を見つけた泉さんが今後の抱負を語る。

10代の演奏家リサイタル

2001年5月1日。私にとって大きな大きな記念日となりました。名付けるとすれば「ゆりの音楽やってて幸せ記念日」。

小さな頃からステージで弾くのが大好きで、今までもたくさんのステージに立たせて頂きました。でも、あの5月1日ほど「幸せ」を大きく感じたステージは今までありませんでした。もう、言葉ではうまく言えないほど、私は楽しんでいました。聞きにいらして下さった方々、ありがとうございます。でも、失礼かもしれませんが、あの日あの場で誰より楽しんでいたのは私だったような気がします。なぜ今までの本番と違う気分だったのかよくわかりませんが、1つ思いあたるとすれば、このノーテンキ娘が「ゆりのなりに」ではありませんが、悩みを持ち、ふっ切れた後だったからでしょうか。

10代の演奏家リサイタルが決定した頃、実は色々なことにぶつかって来ました。17歳という、世間から「危ない若者」なんて呼ばれる年代、こんなボケ～とした私でも、大人達が信じられなくなり、言うこと全てに裏があるのではないかと、結局みんな自分がかわいいじゃん・・・などと、やめておけばいいような大人不信の時期。

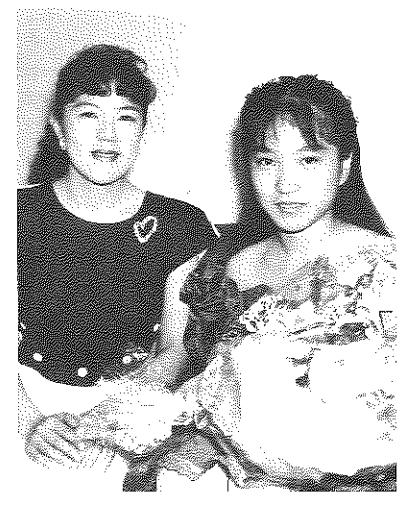
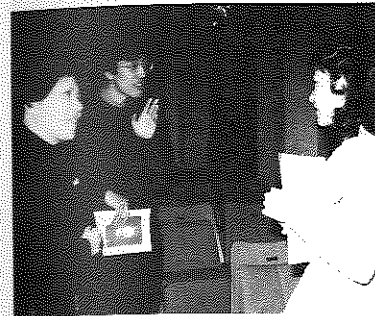
そして、かえって自分の演奏に納得できず、自信喪失する自分。この2つがいつべんに訪れていたのが、リサイタルのお話をいただいた頃でした。

それから約1年。5月1日を迎えるまで、様々な葛藤や悩みがありました。しかし演奏している間の私が幸せでいられたのは、聞いて下さっていた方々の暖かさがすごく伝わってきたこと。また私が悩んでいたのを一生懸命支えて下さった人達のおかげです。

「大人のおかげと一緒に泣いてくれた親友。「そんな大人ばかりじゃないぞ」と教えてくれた高校の先生。「あなたの音楽はこんなもんじゃない。自信もたなきゃ」とご指導下さったピアノの先生方。今の私の力では、お返しに値するほどの演奏は出来ないかもしれませんが、いつの日か今私を支えて下さっている人達に、お礼となる暖かい演奏が出来るように、頑張っていこうと思います。5月1日という日、私はこれから毎年今回のリサイタルを思い出すでしょう。その時が、今年2001年の5月1日同様、幸せな気分でいられるか、また私なりの壁にぶつかっているかわかりませんが、今回のリサイタルで確認することが出来た色々なことを忘れないでいようと思います。

先生方との出会い

私がピアノを専門にやっていく土台をつくって下さり、今でも心配ばかりかけている江崎先生との出会いもピティナでした。A2級で運良く全国大会に出場でき、そのパーティの後、先生のお弟子さん達に遊んでもらったのが、最初のきっかけでした。江崎先生が残して下さっているビデオでの成長記録は、大切な宝物です。一番初めには、足をブラブラさせた幼稚園生の私が映っていて、8小節くらいの曲を弾いています。曲が難しくなるにつれて、可愛さもどんどん減っていき、今に至ります(笑)。「演奏には人間が表れる」とよく言いますが、このビデオはそれを証明しているようです。何も考えず、ただ弾いていた頃の「可愛かった」私は素直な音を出しているし、中学生頃の「憎たらしい」私はつまらなそうに弾いています。高校あたりからは……最近だから何とも言えませんが、楽しく弾いているのは確かです。江崎先生は「あなたの母港になってあげるから、どこでも行きなさい。いつでも帰ってらっしゃい」とおっしゃって下さいます。そして様々な機会をあたえて下さっただけでなく、人間として大事なことを、たくさん教えていただいています。



左上) 5月1日王子ホールにて開催された「10代の演奏家シリーズVol.14」の一コマ。黄色の鮮やかなドレスに身を包む泉さん。繊細かつ流麗な音色で魅了した。
左下) 終演後先生方に囲まれて。
中央) 幼い頃からの恩師、江崎光世先生と。ゆりのさんを導いてきた江崎先生から、多くのものを学んだという。
右) 憧れの人、伊藤恵先生。

戸惑いもたくさんありましたが、それ以上に得るものの多さに驚きました。私の無知さに驚かれても丁寧に教えて下さる先生方には、本当に感謝の気持ちばかりです。先生方のレッスンは毎回、新しい扉を開いて下さるかのようです。自分の知らなかった自分に気付いたりする連続で、以前よりもっと楽しんで音楽と関われるようになりました。それぞれの素晴らしい先生方との出会いに、私は感謝するしかありません。どの先生1人と出会ってなくても、今の私は無かったですし、またこの先も無いように思います。

今までの私とこれから

私は今年3月まで、普通高校に通って来ました。中学生の頃、音楽高校進学を考えなくてはなかったのですが、周りが音楽をやる友達ばかりの環境より、自分は普通高校のほうが合うな……と思い、結局普通高校を選びました。1学年100人弱の小さな学校で、私は大切な友を得、心から信頼できる先生達から、多くのことを学びました。ピアノをやっていることで、他の

人とは少し違うところもあり、単位のことなど、先生方には迷惑ばかりかけていましたが、友人達の助けもあり、なんとか卒業できました。大変なこともありましたが、音楽高校では得られないであろう喜びや感動をいっぱい味わうことができ、在学中も卒業した今も、一度も後悔していません。高校の友人達、先生達は今でも私のことがお見通しのようで、いつも叱咤激励してくれます。そんな暖かい仲間達は、これから先どんな状態になろうと、大切にしたいと思っています。

今私は大学へは行かず、ピアノのレッスンと語学の勉強をしています。いつか海外で音楽を学ぶため、今は準備期間です。私の夢は上手いピアニストではなく、暖かいピアニストです。まだまだ演奏も中身も未熟な私を応援して下さい、いつかいい演奏家になりたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお祈りします。

いずみ ゆりの◎88年よりピティナ・ピアノコンペティションに参加し、これまで6回の金賞及び最優秀賞(A1・B・C・D・デュオ上級・C級・デュオ特級)含む数々の入賞歴を持つ。また99年にはJr.ジーナバックアワー国際ピアノコンクールにて第3位入賞を果たすなど、国際コンクールにも意欲的に挑戦。その他東京交響楽団、ポーランド・クラクフ室内管弦楽団等と共演、これまでザルツブルグ、ハンガリーなどでも演奏をしている。現在、伊藤恵、江崎光世、江口文子、浦壁信二各氏に師事。来年1/14沖縄にてリサイタル予定。